

心失うときには新たな道を希うような、それほど彼女の音楽は聴くものの胸にストレートに響いてくるのである。

7月のプログラムに予定されているのは、重厚なドイツものと日本の武満作品。まさにコルネリアを標榜する垂涎の構成であるが、彼女が日本で武満を弾くのはこの彩の国が初めてという。何と愉しみなことではないか。

彼女が一時も傍らから離さないドイツ音楽は、自身のメンタリティの証明でもある。バッハでは対位法の処理や明確な構成観による造形等並々ならぬ力量が期待されるし、シューマンでは作曲家の心象風景を外連味なく表現するに違いない。またメンデルスゾーンやベートーヴェンに対しても、粒立ちが良く気品に溢れた美音を駆使し、奇を衒うことなく潤沢な感性や閃き、さらに千紫万紅の色彩で高度な次元の音楽へと収斂するだろう。そしていずれの楽曲にも、瑞々しく清澄な生命感を湧き上がらせてくれるに違いないのである。

9月からは、男性エトワールたちの素晴らしい個性が競演

コルネリアばかりではない。9月のアンドレイ・コロベイニコフも期待大である。1986年生まれだからまだ20歳そこそこであるが、第3回スクリャービン国際ピアノ・コンクール優勝、第2回ラフマニノフ国際ピアノ・コンクール第2位と実績は充分、2005年の横浜市招待国際ピアノ演奏会におけるスクリャービンの鮮烈な演奏は、決して忘れることはできない。ドラマティックにして馥郁たるロマンが零れるようだった。

続く北村朋幹はさらに若く、まだ弱冠16歳。しかしながら既に演奏は驚くほど成熟しており、その音色の美しさは抜きん出ている。どんなに込み入った和音でも混濁することはなく、芳醇に響いて心を放さない。どれだけ速いパッセージや和声推移も、まるで人事のように常にクリアに彫琢されるのだ。そこから浮かび上がる音楽的センスこそまさに際立った個性であり、将来どれほど深化していくのか注目の存在だ。

そして今年度のトリはロマン・デシャルム。既に演奏家としてリサイタルやオーケストラとの共演など、着実にキャリアを築きつつある。2004年の横浜市招待国際ピアノ演奏会では、多彩でかつ珍しいプログラムで聴くものを圧倒したが、NHK「スーパー・ピアノ・レッスン」などにも出演していたから、ご記憶の方も多いと思う。

とまれ、登場ピアニストやそのプログラムにおいても並々ならぬ意欲が感じられる企画である。すべてに足を運び、旬のピアニストたちの“今”に触れてみたい。

Vol.6 アンドレイ・コロベイニコフ



©Juliana Voloz

【日時】9月27日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ムソルグスキー：組曲《展覧会の絵》
シューベルト：ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D960

【1回券発売日】一般：5月10日(土) メンバース：5月3日(土・祝)

PROFILE 1986年モスクワ近郊のドルゴブルドヌイ生まれ。2004年スクリャービン国際ピアノ・コンクール(モスクワ)優勝。05年ラフマニノフ国際ピアノ・コンクール(ロサンゼルス)第2位及び聴衆賞。19歳でモスクワ音楽院を最優秀の成績で卒業し、現在、奨学金を得て英国王立音楽大学大学院で学ぶ。これまでに、ウィグモア・ホール、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ナントや東京でのラ・フォル・ジュルネなどに出演。12歳でモスクワのヨーロッパ法科大学に入学。03年に卒業、司法試験合格を果たす。また、エスペラントを話すなど異彩を放つ。

Vol.7 北村朋幹



【日時】12月13日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】J. S. バッハ(北村朋幹編曲)：
憐れみたまえ、わが神よ(《マタイ受難曲》BWV244より 第39曲)
羊は安らかに草をはみ(《カンタータ「楽しき狩こそわが喜び」》BWV208より 第9曲)

ショパン：バラード第1番 卜短調 作品23

グリーグ：《叙情小品集》より

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第13番 変ホ長調 作品27-1

ドビュッシー：2つのアラベスク

シューマン：クライスレリアーナ 作品16

【1回券発売日】一般：7月5日(土) メンバース：6月28日(土)

PROFILE 1991年生まれ。2005年に東京音楽コンクールにて優勝及び全部門共通の審査員大賞を受賞して注目を集める。06年、彩の国さいたま芸術劇場「ピアニスト100」シリーズに出演。2部構成の本格的なリサイタルではこれがデビューとなる。同年、浜松国際ピアノ・コンクールで第3位。07年には東京のラ・フォル・ジュルネや東京の夏音楽祭への出演、日本の主要オーケストラとの共演、NHK「びあのピア」への出演など、活躍の場を広げている。現在、江口文子、大西真由子各氏に師事。

Vol.8 ロマン・デシャルム



【日時】2009年2月7日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】モーツァルト： rond イ短調 KV511
モーツァルト：ピアノ・ソナタ第9番 二長調 KV311
ブラームス：6つの小品 作品118
ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ
フォーレ：舟歌第1番 イ短調 作品26
ラヴェル：ラ・ヴァルス

【1回券発売日】一般：9月27日(土) メンバース：9月20日(土)

PROFILE 1980年フランス・ナンシー生まれ。パリ国立高等音楽院でピアノ、室内楽、ピアノ伴奏法、声楽伴奏法のすべてのクラスをブルミエ・ブリ(1等賞)を得て卒業。メイエル財団が作成した20世紀初頭の作品を扱ったCDがブルーゼズの目に留まり、同氏からのアドバイスを受ける。2006年ダブリン国際ピアノ・コンクール優勝、07年ベルルミュテール・コンクール優勝。また、NHK教育テレビ「スーパー・ピアノ・レッスン〜フランス音楽の光彩〜」にも出演している。初のCD「ブラームス作品集」をロンドンのクラウディオ・レコードから発売。

ピアノ・エトワール・シリーズ チケット (税込)

- 4回セット券 S席セット12,000円/A席セット8,500円
- 1回券 S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円

メンバース S席3,150円